

教案

世代を超えて皆が心地よい場を創る：作ろ Udon・食べよ Udon

目次

対象となる子ども	1
目標	1
活動実施上の基本方針	2
(1) 全4回+家での学習	
活動の構造	3
全体の概要（大まかな流れ）	4
(2) 全6回+家での学習	
活動の概要	10
全体の概要（大まかな流れ）	11
実施のバリエーション例	17

■ 対象となる子ども

年齢	4歳から90代成人（何歳でも）
人数	10名程度（うどんを作るため、台所の広さにもよるが、何人でも可能）
経験・知識	多様（特に問わない）
日本語力の目安	A1レベルから、話す能力はC2レベルまで多様（特になし）

■ 目標

目的	日本文化や日本食に親しみながら、自分や他者の多様な考え方を知り、他者との協働や地域とのつながりを通して、主体的に学び、関わる力を育成する
目標	- うどん作りや書道、絵画、川柳などの日本文化に親しむ - 日本食について、調べ、実際に作り、食べ、片付けまでの一連の活動に主体的に取り組む - 自分や家族の好きな・苦手な食べ物や得意・不得意なことを知り、認め合う - イベントの準備や運営に関わりながら、地域の人々との交流を通じて社会とのつながりを感じる
言語面の目標	- 自分の興味関心のある語彙・表現を学ぶ - 他人と意味のあるやりとりをする 「うどん会」での自分の学びや感想を話す／書く - オノマトペと川柳・俳句を味わう／学ぶ

■ 活動実施上の基本方針

(1) 人はそれぞれ何もかも違う！

人は一人ひとり違います。性格、好み、得意・不得意、学びのペース、家族関係・家庭環境、触れてほしくないこと等は人によって全く違いますし、変化するものです。また、誰にでも何もしたくない日もあります。教師は、そのような学習者個々の背景や事情等をふまえて接するようにしています。

(2) 居心地のよい感じの温かい雰囲気を！

学習者みんなが、素が出しやすく、協力し合える温かい雰囲気を作るようにしています。それと同時に、どのように関わるのかを学習者自身が選べる自由さや、何もしないという選択をするといった、適度な「ゆるさ」も大切だと考えています。

(3) みんなの居場所となりうる場づくり

学習者だけでなく、保護者、家族、地域の方々の居場所となりうることも意識して、人が集まりやすくなるように工夫して活動しています。学習者が教室を居場所と感じられるように、教師から学習者それぞれに役割を押し示すこともあります。

(4) 学びは学習者に任せる

活動の際には、細かく計画しすぎず、時間に余裕を持つようにしています。学習者が自発的に動くことを優先し、学習者が調べたことや決めたことを尊重しています。全ての経験は学習者が成長するチャンスととらえ、手出しせず、見守るようにしています。学習者が結果に不満そうだったら、「次回、もう一度やってみよう!」と提案してみることもあります。

(5) 決まりはあるが、臨機応変に

命や安全、心の安心に関することはルールを徹底しています。(例:台所では走らず、よく見て歩く。火や熱湯、包丁の扱いに気をつけることを大人が年少者に教える。年少者は誰かと一緒に作業する。うどんを食べるとき、「いただきます」「ごちそうさま」はみんなと一緒にする。いじめをしない等)

(6) 自分に甘く・やさしく自己評価

自己評価は、自由な形で、自分自身をみつめることを大切にしています。「人と比べることには意味はない」と繰り返し学習者に伝えるようにしています。人によっては変化を求めず、「前回の自分とも比較しないでいい!」という姿勢を教師から示すこともあります。その場に來ただけでも素晴らしいという評価があってもいいと考えています。

自己評価が低い学習者に対しては、大人の応援者(教師や保護者等)がいることを示すこともあります。教師は、学習者の自分探し(主にいいところ探し)を手伝ったり、自分に甘く、自己評価を上げるような視点を示し、盛り上げたりしています。

■ 活動の構造

この活動では、世代を超えて仲間と一緒に、心も体も温まる「うどん」を作り方から調べ、手作りします。そして、地域のイベント「うどん会」で、手作したうどんと一緒に食べるという経験を通して「ほどよく心地のいい場」を創ることを目指した活動です。

対面授業と、家での学習を取り入れて行っています。

クラスの実態や様子に応じて、活動内容の組み合わせや活動時間や回数を自由に変えることができます。

この教案では、以下の2つのパターンを紹介しています。

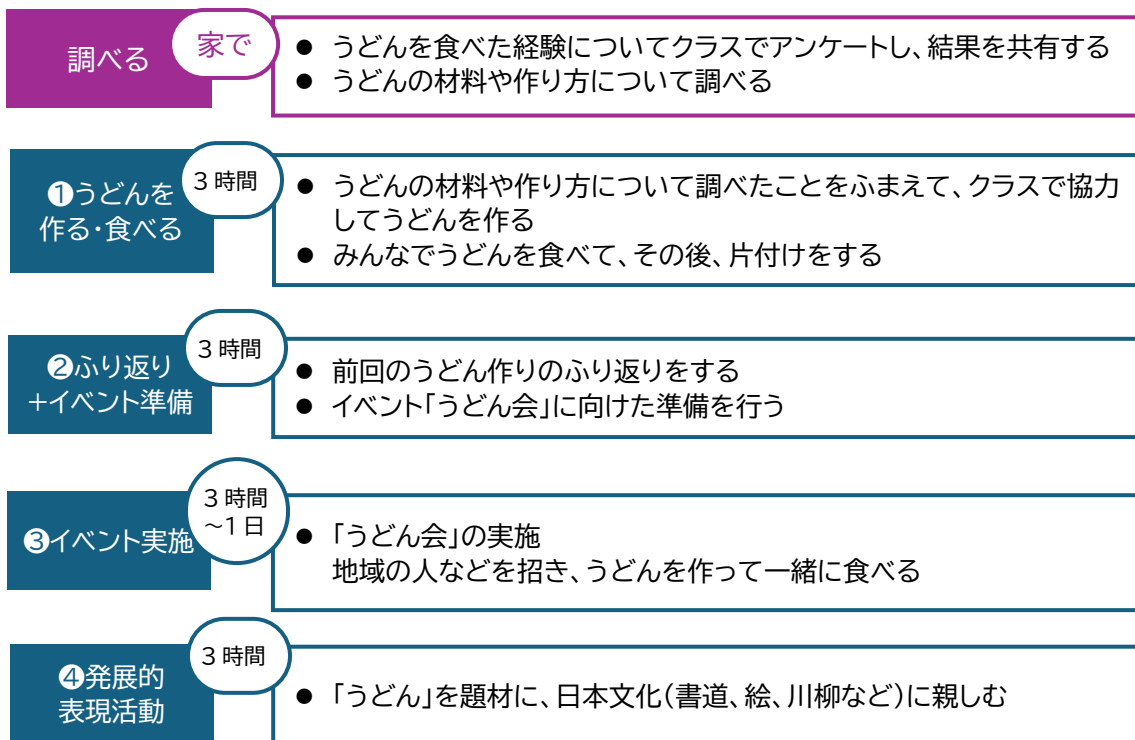
(1) 全4回+家での学習 (pp.3~9参照)

(2) 全6回+家での学習 (pp.10~16 参照)

※その他の「活動実施のバリエーション例」は[こちら](#) (p.17) ご覧ください。

(1) 全4回(1回3時間程度)+家での学習

「うどん会」の企画や準備を教師があらかじめコーディネートして進める方法です。



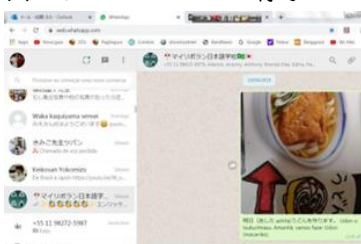
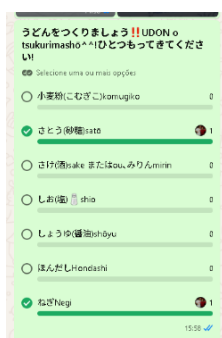
※所要時間はあくまで目安です。特に「③イベント実施」の時間は、イベントの規模等によって異なります。

■ 全体の概要(大まかな流れ) (1)全4回+家での学習

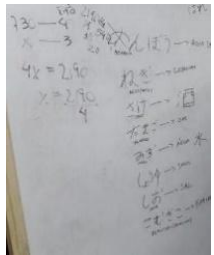
【事前準備】(教師がすること)

- ① 数か月前から、「うどん会」について関係者と相談する。(イベントの規模、協力者、会場、日時、価格など)
- ② 数か月前から、「うどん会、うどん作り」について学習者や保護者に知らせる。
- ③ 活動開始前の授業で、うどんについての「調べ学習」のことを学習者に知らせる。

【調べる】(家での活動)

時間	活動内容	備考
家で	【「うどん」について調べる】 1. うどんについて調べて、グループ SNS で共有する <u>教師(T)の SNS 書き込み例:</u> T:「うどんを食べたことがありますか」とアンケートをして くれる人はいますか。(図1: SNS のアンケート機能を使用し て、学習者の誰かにアンケートをしてもらう) T: うどんの材料や作り方を調べて、載せてください。 (図2) 2. 次回のうどん作りは、材料を持ち寄って作ることを確認 する <u>持ち寄り担当の決め方(例)</u> ・次のクラスで何を持って来るか決める。 ・SNS で「〇〇を持っています」とメッセージを送り合う。 ・アンケート機能で選ぶ。(図3)	図1: グループ SNS の様子  アンケート方式で、 うどんを食べた 経験について聞く。 図2: グループ SNS の様子  図3: グループ SNS で持ち寄り担当 決め(アンケート方式)  ・学習者が材料を用意することが難 しい場合は、教師が用意する。

【1回目:うどんを作る・食べる】

時間	活動内容	備考
3 時間	【うどんを作る・食べる】 1. ルールを確認する 安全に関するルールをみんなで確認する。 教師(T)と学習者(P)のやりとり例: T:ここ(台所)では、走ら(…)。 P:ない! 台所では、走らない。 ゆっくり気をつけて歩きましょう。 T:どうして? P:火やお湯があります。危ないです。 2. 材料を確認する(図4) 教師と学習者のやりとり例: T:持ってきた材料の名前を教えてください。 T:黒板やノートに書きましょう。 P:小麦粉です/これは塩です/しょうゆを持ってきました。 3. 学習者同士で協力できるように、グループに分かれる T:5人のグループに分かれましょう。 T:大きい子と小さい子が混ざるようにしましょう。 4. 分量を計算する 以下、2つの方法どちらかで行う。 方法1) 全員で資料1の「材料」を見て、うどんの材料の計算をする T:材料を計りましょう。 方法2) グループで協力して資料1の「材料」の部分を読み、作業を進める(詳しい進め方は、資料2参照)。 T:グループに分かれましょう。まず、グループで代表の人を決めてください。代表の人は、材料の紙を読んで、その情報をグループのメンバーに伝えてください。 5人分はどうなりますか。グループで計算しましょう。	図4:材料を確認 学習者から出た意見をホワイトボード等を書く。  ・教師は学習者同士が話し合やすくなるように、きっかけを作ったり、話し合いを促したりする。 資料1:<u>うどんの材料と作り方(例)</u> 学習者が調べ、SNSに載せたことを適宜教師が反映させて作成する。  資料2:<u>「うどんの材料と作り方」の読み方</u>

5. 作る (図5) 方法1) 全員で資料1の「作り方」を見て、うどんを作る 方法2) グループで協力して資料1の「作り方」を見て、うどんを作る(資料2参照) T: グループで一人の人が、「作り方」の一番をまず読みます。わかったことを、グループの人に伝えてください。 T: 次は別の人が「作り方」の二番を読んでください。(最後の工程まで繰り返す) 6. 食べる 「いただきます」と言ってから楽しい雰囲気食べ、ワイワイ感想を言い合う。 7. 片づける 協力して片づけるよう、学習者に声をかける。 <u>教師と学習者のやりとり例:</u> T: Eさん(P)、片づけリーダーは誰がしますか。 E(P): 誰か、今日の片づけリーダーをお願いします。 F(P): 私!私!がします。 【ふり返りと自己評価】 うどんを作って食べた経験をふり返り、自分の言葉で「今日の学びや気づき」をまとめて、自己評価をする。 記録の方法は、ワークブックやノートに書いたり、音声や映像で録画したりする等、それぞれがやりやすく、後で見返せる方法にする。 <u>教師の声かけの例:</u> T: うどんはおいしかったですか。作ってみて、どうでしたか。何か気が付いたことがありますか。 T: 今日、何を学びましたか。自由に記録をつけましょう。 T: 今日の自分を「自己評価」しましょう。自分で自分を見つめてみましょう。 (自己肯定感が低すぎると思われる子どもには) T: 今日の自分の良かったところを探そう!人は色々、違うのだから、人と比べることはナンセンス!自分だけを見て、どう思う? (よく観察して、小さなことでもいいので、褒める。) T: Cちゃん(年少者)にやさしく話していたね! (素直に来たことを喜ぶ姿勢を示す。) T: 休まずに来たからうれしい!	図5: うどん作りの様子  ・「おいしい」だけではなく、ネガティブなことも含めて、自由に感想が言い合える雰囲気を作る。 片づけのルール(例) ・1人1つは片づける。 ・片づけリーダーを決める。 【自己評価のポイント】 ・自己評価は、自由な形で、自分で自分をみつめる。点数や絵文字や簡単な言葉で自分をふり返る。(例: 文字を書くのが難しい年齢の場合は、保護者と一緒に表情シールを貼るなどの対応をする。) ・「人と比べることに意味はない」と繰り返し伝える。 ・自分探し(主にいいところ探し)を手伝う。自分に甘く、自己評価を上げるような視点を示し、盛り上げる。来ただけでも素晴らしいという評価があってもいい。人によっては、変化を求めず、過去の自分とも比較しない!という姿勢を示すこともある。 ・自己評価が低い子どもには、大人の応援者(教師など)がいることをそっと示す。 ・録画など、後で、自分で自分の変化や成長が認められるように記録する。家族や周りの人にも見え、わかりやすく伝わるような形で残す。
---	---

【2回目:ふり返り+イベント企画】

時間	活動内容	備考
3 時間	【ふり返り】 うどんを作って食べたことを自由にふり返る。 <u>教師の声かけの例:</u> T:前回のふり返りコメント動画を見てみましょう。 T:思ったことやもっと知りたいことがありますか。 何でもいいので、教えてください。 みんなで話してみましょう。 【イベント「うどん会」の準備】 1. 「うどん会」のイベントをすることを伝える <u>教師の声かけの例:</u> T:「うどん会」をすることになりました!おいしいうどんをたくさんの方に召し上がっていただきましょう! 2. イベントの準備担当を決める 分担表を見ながら、誰が何をするのか、協力者に何を頼むのか、確認する。 <u>役割分担をする:</u> -当日の仕事を分担(資料3 参照) ・会場準備担当(テーブル椅子準備、飾り付け) ・料理担当(うどん) ・会計担当(会計方法を決定する) -当日までの仕事を分担 ・前売り券を販売する ・イベント「うどん会」を宣伝する ・必要なものを確認する ① 机や椅子(会場) ② 調理道具やガス、水(台所) ③ 駐車場や警備 ・購入物を確認する ① 材料 ② 容器や箸 ③ ごみ袋 ・作成物を準備する(図6) ① イベントの時間管理と担当者表 ② お知らせポスター (イラストや書道、デジタル広告など) ① 会場に飾るもの(図7) ② ごみの捨て方ポスター ③ 会計箱と会計表や前売り券	・広報先を限定し、知り合いだけで家庭的に行う小さい規模のイベントの方がやりやすい。 資料3:「うどん会」仕事分担・時間管理表(例) ・前売り券を販売すると、何人分作ればよいかの目安になり、おすすめ。 図6:準備の様子  図7:イベント当日の掲示物 

	【ふり返しと自己評価】 「うどん会」準備についてふり返し、自分の言葉で、「今日の学びや気づき」をまとめて、自己評価をする。ワークブックやノートに記録したり、それを音声や映像で録画して記録したりする。 <u>教師の声かけの例:</u> T: 「うどん会」の宣伝を動画に撮って SNS グループに載せましょう。自分の役割について、話しましょう。どんな準備をしましたか。今日の自分について、自己評価しましょう。	
--	---	--

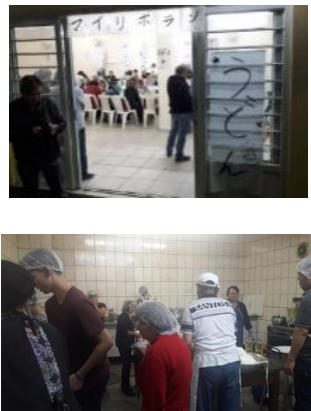
【イベント事前準備(例)】(教師がすること)

前々日まで: 前売り券の販売数の確認とコントロール。担当の学習者と連携する。

前日

- ・学習者と連絡を取り合う。
- ・買い物等の確認。
- ・会場や駐車場の確認。
- ・おつりやカード払い等の会計の確認。

【3回目: イベント実施】

時間	活動内容	備考
3時間～1日	【イベント当日(臨機応変に)】 笑顔でお客様をお迎えられるよう、時間管理表(資料3)を参考に、臨機応変に助け合って、担当の仕事をする。(図8) -会場準備(テーブル椅子準備、飾り付け) -料理(うどん作り) -会計 【ふり返しと自己評価】 「うどん会」についてふり返し、自分の言葉で、「今日の学びや気づき」をまとめて自己評価をする。ワークブックやノートに記録したり、音声や映像で録画して記録したりする。	資料3: 「うどん会」仕事分担・時間管理表(例) ・教師は、お客様はじめ、みんなが居心地よく過ごせるように心を配る。 ・学習者と協力者が話をするように声をかける。 図8: イベント当日の様子 

【4回目: 発展的表現活動】

時間	活動内容	備考
3 時間	【日本文化（書道、絵、川柳など）に親しむ】 書道や絵、キャラクター等で「うどん」を表現する。 教師は見本等を見せ、選択肢を示し、最後に鑑賞会をする と伝える。学習者は取り組みたいことを選び、作品を作る。 ●オノマトペに親しむ。(資料 4) オノマトペについて知っていることをクラスで確認してから、 うどんを表すオノマトペにつなげる。 <u>教師の発話例</u> T: うどんを食べる時の音を表現するなら、どんな音? T: うどんを作ったときに、どんなオノマトペがあった? T: 「つるつる」「ちゅるちゅる」「ずるずる」 どんなイメージ? 知っているオノマトペがある? ●川柳を味わう(資料 5) うどん川柳やオノマトペ川柳を読む。音読し合う。 朗読を録音し、SNS にアップする。自分で川柳や俳句を 詠む。 ●自由に「うどん」を表現する(資料 6、図 9) うどんを題材に、書道や硬筆、絵、絵手紙、イラスト、まん が、キャラクター等で表現する。オノマトペを用いてもよい。 終了時に今日の作品を見せ合う(鑑賞会)。机の上に 並べて鑑賞したり、円になって座り、紹介したりする。 【ふり返りと自己評価】 自分の言葉で、「今日の学びや気づき」をまとめて、自己 評価をする。ワークブックやノートに記録したり、音声や映 像で録画して記録する。	・同じゴールを目指さないが、テーマは 同じ「うどん」で、それぞれがやりたい ことに取り組む。学習者の年齢・レベ ル・好みが違って違和感なく意見を 交換することもできる。 資料 4: オノマトペに親しむ 資料 5: うどん川柳 資料 6: うどんを題材にした作品 (書道、硬筆、絵、絵手紙の例) 図 9: 書道でうどんを表現 

■ 活動の構造（2） 全6回（1回1～3 時間程度）+ 家での学習

「うどん会」の企画や準備を**教師と学習者が相談しながら**進める方法です。

インタビュー	家で	家族や友達に「うどん・食べ物」についてインタビューする
①インタビュー 結果の共有	1時間	- インタビューしてわかったこと等を共有する - インタビュー結果をもとに、グラフを作成する
調べる	家で	うどんの材料や作り方を調べる
②調べたこと の共有	1時間	うどんの材料や作り方について、調べたことを共有し、確認する
③うどんを 作る・食べる	3 時間	- クラスで協力してうどんを作る - みんなでうどんを食べて、その後、片付けをする
④ふり返し+ イベント企画	3 時間	- 前回うどん作りのふり返しをする - イベント「うどん会」の計画/準備をする
⑤イベント 実施	3 時間 ～1 日	イベント「うどん会」を実施する
ふり返し	家で	イベント「うどん会」ふり返る
⑥発展的 表現活動	3 時間	うどんを題材に、日本文化（書道、絵、川柳など）に親しむ

※所要時間は目安です。特に「⑤イベント実施」の所要時間は、イベントの規模等によって異なります。

■ 全体の概要(大まかな流れ) (2) 全6回+家での学習

【インタビュー】(家での活動)

時間	活動内容	備考
家で	【インタビュー】 家族や友達にインタビューして、結果を次の授業で共有することを伝える。 インタビュー項目 ・「うどんが好き/嫌い」「好きな/苦手な食べ物」 <u>教師の SNS 書き込み例</u> T:「うどんが好き?」と周りの人に聞いてみましょう。 T:ご家族やお友達の好きな/苦手な食べ物の調査をしましょう。 T:「どうして?」と好き嫌いの理由も聞いてみましょう。 知りたいなと思ったことは素直に質問しましょう。 T: 今度の授業で発表しましょう。	資料 7: <u>うどんインタビューシート(例)</u> ・インタビューシートを使用しない方が自由に深く話せることがある。だが、質問を考えるのが難しい学習者などには、インタビューシートを使用してもよい。 ・年齢等に応じ、インタビュー項目を変える。(例: 幼児は、「好き/嫌い」だけ、年長者は、詳しく家族のエピソードも聞く等)。 ・年少者は必要に応じて、家族と一緒にインタビューをする。

【1回目:インタビュー共有】

時間	活動内容	備考
1 時間	【インタビュー結果の共有】 インタビュー内容について、共有する <u>教師の発話例</u> T:ご家族に、うどんが好きかどうか聞いてみましたか。 T:好きな食べ物について話しましょう。 T:インタビューできなかった人は、自分のことを話しましょう。 <u>共有のステップ(①~⑤)</u> 一人⇒隣の人(疑問解決、自信を持つ)⇒全体 ① 1枚の付箋に「名前とうどんが好き/嫌いのインタビュー結果」を書く。(図10) ② ①の好きな食べ物とは別の付箋に「名前と1つの好きな食べ物」を書く。 ③ ペアや小グループで①と②の紙を見ながら、話す。(何語でもいいワイワイタイム)	・家での活動ができなかった学習者への配慮(その場で全員参加できるように。) 図10: 付箋記入例  ・同じ大きさの紙を使うとグラフ作成が簡単にできる。 ・「何語でもいいワイワイタイム」は、安心して話せる大事な時間。何語でもいいですよ!という言いが大事。ひとり持っている情報を隣の人に話して、応援者を増やすイメージ。全体共有の前にこれをしておくと、発表時、安心して話せる。

	④ 全員で大きな紙に①～③の結果をグラフにまとめ (図11のように付箋を貼ると、棒グラフができる) ⑤ 調査の結果、わかったことなどを全体共有する <u>発表例(P:学習者)</u> P:父はうどんが好きです。〇〇さんのお母さんも、うどんが好きだそうです。 P:母は「風邪をひいたときに食べたうどんがおいしかった。」と言っていました。 P:「うどん好き/きらい調査」は全部で20人が答えてくれました。うどんが好きな人が14人、嫌いな人が2人、その他の人が4人いました。70%の人(14人)がうどんが好きだとわかりました。 【次回についてのお知らせ】 T:さあ、次は、うどんを作りましょうね。作り方や材料を調べましょう!ご家族やお友達に、もっと詳しくインタビューしてもいいですね。 T:どんなうどんがありますか/材料はどんなものがありますか/どんな作り方がありますか/ お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんが住んでいたところの有名なうどんは、どんなものがありますか。 【ふり返しと自己評価】 自分の言葉で、「今日の学びや気づき」をまとめる。 自己評価をする。 ワークブックやノートに記録し、それを音声や映像で録画して記録する。	図11:グラフ作成  ・縦に同じ項目の付箋を貼ると、棒グラフが簡単にできる。成果物は教室に展示して保護者に見せたり、SNSに載せ、広く発信したりできる。 <発展活動> クラスのメンバーによっては、棒グラフから円グラフを作ったり、%の概念に触れることもできる。
--	---	--

【調べる】(家での活動)

時間	活動内容	備考
家で	【調べたことをグループ SNS で共有】 うどんについて調べ、SNS グループで共有しよう。 <u>教師からの SNS 書き込み例</u> T:うどんの材料や作り方を調べた人は、何でもいいので、載せてください。 T:ご家族にいろいろ質問してくださいね。 どんなうどんの種類があるかご存じかもしれませんね。	・活発なやりとりがない場合は、教師から質問して、きっかけを作る。

【2 回目: 調べたことの共有】

時間	活動内容	備考
1 時間	【調べたことを共有】 <u>教師の発話例</u> T: うどんについて、どんなことがわかりましたか。 T: うどんの材料、作り方について、調べたことを教えてください。 <u>共有のステップ</u> ① うどんについて(特徴、地域差など)分かったことを自由に話す。 ② うどんの材料を確認する。 ③ ワークシート(資料 8)を使って、楽しく調味料を確認する。なめて、触って、味やにおい、感触などを話して、ワークシートに書く。 ※目隠しゲームで「塩か砂糖かを触って当てる、水か酢かを匂いで当てる等」をしてもいい。「ざらざら、ツーン」などオノマトペを言いながらすると発展的表現活動につながる。(図 12) ④ 作り方を確認する。 現地語やイラストも使ってもいい。家で誰も調べて来なかった場合は教師が簡単に説明する。または、その場でインターネットで調べ、「うどんの作り方がかるたカード」(図 13)を使って、順番に手順を並べる。 ⑤ うどんの材料や道具を誰が何を持ってくるのか、分担する。 T: 誰が何を持ってくるか決めましょうか。 【ふり返りと自己評価】 自分の言葉で、「今日の学びや気づき」をまとめる。 自己評価をする。 ワークブックやノートに記録し、それを音声や映像で録画して記録する。	資料 8: 台所あいうえお 図 12: 目隠し調味料あてゲーム  図 13: うどんの作り方がかるたカード  かるたカードの例 ・動詞: はかる、混ぜる、入れる、伸ばす、切る、ゆでる等 ・材料: 小麦粉、砂糖、塩、しょうゆ等 ・調理道具: はかり、ボール、なべ、まな板、包丁、箸等

【3 回目: うどんを作る・食べる】

時間	活動内容	備考
3 時間	【うどんを作る・食べる】 1. 安全に過ごせるようにルールを確認する。 <u>教師と学習者のやりとり例</u> T: AさんとBさん(年長者)、C君たち(年少者)に、外に行くときはどうするか、確認してもらってもいいですか。 A: C君は外に行くとき、一人で行ってもいい? C: だめ。誰かと一緒に行く! 2. 学習者が持ち寄った材料や道具を確認する。 <u>教師と学習者とのやりとり例</u> T: 持ってきた材料を確認しましょう。 P: 小麦粉です/これは塩です/しょうゆを持ってきました。 T: 今からはメモする時間です。何分必要ですか? わからなかったことはその人に直接聞いていいです。 3. 人数分の分量を計算する。 <u>教師の発話例</u> T: 何人分のうどんを作りますか。 T: うどんの材料を計りましょう。 ※グループによっては全て任せ、あまり発言しない。 4. 作りながら、明るい気持ちになるような声掛けや、居心地のいい雰囲気作りをする。(図14) <u>教師の発話例</u> T: おいしくなあれ!(混ぜるときなどの掛け声) T: (年長者に) C君(年少者)と一緒にやってみたら? C君(年少者)は何ができるかなあ? 5. うどんを食べる。 みんな一緒に「いただきます」で食べ始められるように、お互いに協力し合う。笑顔で食べられるように気を配る。作っているときの面白いエピソードを話す。 6. 協力して片づける。 基本的に必ず一人一つは片づけるように声をかける。 【ふり返りと自己評価】 自分の言葉で、「今日の学びや気づき」をまとめる。 自己評価をする。ワークブックやノートに記録し、それを音声や映像で録画して記録する。	・その日のリーダーや、タイムキーパー、いただきます係、片付け番長など、たくさんの部門に分けてリーダーを決めておくと、責任感も増し、様々な場面で全体を見渡す力もつく。 ・発表の後に「メモする時間」を作ると、気になったことばや知らなかったことなども解決する。(自分だけの学びにつながる) ・年長者と年少者の関わりには、少し前に体験してできるようになった2歳くらい年上の年長者が年少者を手伝う場合もあれば、年少者が言語面上の場合、年長者が質問する場合もある。 ・教師は、安全に注意しながら、みんなが居心地のいい雰囲気になることを祈って見守る。 図14: 協力してうどん作りする様子 

【4 回目:ふり返し+イベント企画】

時間	活動内容	備考
1.5 時間	【うどんを作って食べた経験のふり返し】 <u>教師の声かけの例:</u> T: うどんはどうでしたか。うどんを作って、どう思いましたか。何か気が付いたことがありますか。 自由に「うどん」についてふり返りましょう。 何かの形に残しておきましょう。 T: 絵を描いても、絵日記をかいても、作文を書いてもいいです。動画を撮ってもいいです。もっと知りたいことが、ある人は、もっと調べてください。 T: 絵や作文、書道など「うどん会」で飾りましょう。 <u>ふり返りの例</u> ●絵を描く: 墨絵風に書道の道具を使ったり、クレヨンや絵の具を使って、イラスト風、漫画風に描いたりする。 ●絵日記や作文を書く: 好きな絵の説明書きをする。 ●動画を撮る: ふり返しシートの自分の気づきや、自己評価などを自分のことばで説明する様子を動画に撮る。うどんについて、はじめに調べたことに自分の経験をのせて話す。 ●さらに調べ学習をする: ポスターを作る。調べたことを SNS などに載せる。	・ふり返りの方法は、学習者それぞれが自由に決める。 ・「公開用の SNS に載せる」と伝えたり、イベント等で他の人に見てもらえたりする場があると、やる気が出て学習者の取り組み度が変わることが多い。
1.5 時間	【イベント「うどん会」の企画・準備】 1. 「うどん会」のイベントをするか、どのようにするか、学習者と相談する。 <u>教師の声かけの例:</u> T: イベント「うどん会」をしませんか。たくさんの方においしいうどんを召し上がっていただきましょう。 どう思いますか。 2. 学習者と相談しながらイベントの準備を進める。 まずは、何を決めなくてはいけないと思うか、学習者がアイデアを話し合う。教師から何をするかを初めから提示せず、どんなことが決まるのか、教師は、楽しんで待つ。 (図15)	・リーダーや書記を決めると責任感が育つ、また、教師の負担も減る利点もある。 ・手伝ってくれそうな人に声をかけ、日本語教育に巻き込む人を増やすチャンス! 図15:準備の様子 

	<u>参考) 役割分担をして進めること:</u> -仕事の分担(リーダーを決め、仕事分担表を作成) -協力者(手伝ってくれる家族、友達に声をかけ、担当や時間を確認) <u>参考) 決めること:</u> -日程や時間 -イベントの規模-値段 -サイドメニューや飲み物 -前売り券 -協力者 -会場準備担当 -料理担当 -会計担当 -お知らせポスター(イラスト担当、書道担当など分担) -お知らせ動画(SNSに載せる) -会場に飾るもの(イラストや書道、折り紙など。図16) -会計(箱を作る。お金の支払方法案内) -ごみの捨て方(ポスター・動画を作る) 【ふり返りと自己評価】 自分の言葉で、「今日の学びや気づき」をまとめる。 自己評価をする。 ワークブックやノートに記録し、それを音声や映像で録画して記録する。	図16: イベント当日の飾り付け  ・イベントの飾り付けは、他人に作品を見てもらい、褒めてもらういい機会
--	--	--

【5 回目: イベント実施】 [p.8](#)と同じ。

【6 回目: 発展的表現活動】 [p.9](#)と同じ。

■ 実施のバリエーション例

- (1) **全1回(1回 3 時間程度)【日本語を学ぶ視点を入れて、うどんを作って食べる活動をする】**
＜うどんを作る・食べる・ふり返る＞
 時間が足りない・カリキュラムに余裕がないなどの理由でたくさんの時間をかけるのは難しい場合、机上の勉強だけからちょっと場を変えてみることも良いかと思います。まずは「うどんを作って食べる活動」をやってみてはいかがでしょうか。
- (2) **家での学習+全1回(1回 3 時間程度)【調べてから、うどんを作って食べる活動をする】**
＜家で調べる→調べたことを共有する・うどんを作る・食べる・ふり返る＞
 自分で調べたことを、思い出したり、誰かに伝えたりしながら実際に手を動かして「うどん」を作って食べてみる活動です。
- (3) **家での学習+全2回(1回 3 時間程度)【うどんを食べた後に発展的表現活動をする】**
＜家で調べる → ①調べたことを共有する・うどんを作る・食べる → ②発展的表現活動＞
 発展的表現活動をするときに、皆で同じ経験をしているので、仲間の表現に深く共感することができます。また、表現に困った場合も、学習者同士がお互いに助け合うこともできます。
- (4) **全2回(1回3時間程度)+家での学習【発展的表現活動をした後にうどんを作る活動】**
＜①発展的表現活動 → 家で調べる → ②調べたことを共有する・うどんを作る・食べる・ふり返る＞
 何かの方法で「うどん」を表現した(うどんが身近なものになった)後なので、調べ学習がしやすいです。食べるときに「つるつる」と言って、教え合ったり、文化的表現を確認しながら「うどん作り/食べる体験」をすることもできます。
- (5) **家での学習+全3回(1回 3 時間程度、イベントは1日)【うどんイベントを実行する活動】**
＜家で調べる→①調べたことを共有する・うどんを作る・食べる → ②ふり返る・イベント企画 → ③イベント実施＞
 活動の規模を、小さなところから徐々に大きなものへと広げていきます。いきなり「うどん会」のイベントを開催するのは難しいかもしれませんが、まずは自分たちで作ったうどんを、責任をもって他者にふるまったり、販売したりします。こうした取り組みを通して、地域の人々を巻き込み、関わるきっかけを作ることができます。
- (6) **自由なうどん活動**
＜様々な組み合わせ＞
 グループの状態により、組み合わせ方も多様で、ここからさらに別の活動が生まれるきっかけにもなると思います。